

はじめに

10ヶ月にわたる韓国留学の最後の一ヶ月でした。期末試験を終え、日本に帰る前にこれまで仲良くしてくれた友達と会い、最後にたくさんの思い出を作りました。

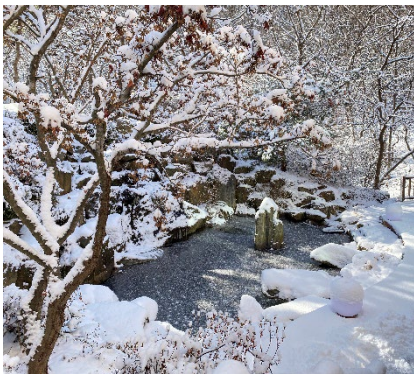
期末試験と期末発表

大衆音楽ビジネスという授業を履修していましたが、中間試験のときこの授業のテスト勉強が一番大変でした。そのため、期末試験では前回の反省を活かして、期末が来る前から少しずつ授業の資料を翻訳していきました。おかげで中間試験のときほどは苦しまずに済みました。しかし勉強量が足りず、試験の手応えはあまりありませんでした。海外で現地の学生に混ざって一緒に授業を受け、同じようにテストを受けることはやはり簡単なものではないと改めて痛感しました。

専門科目は二つ履修しており、大衆音楽ビジネスの他にコンテンツクリエイターという授業を受けていました。この授業では絵本を作りました。最後の授業でどんな絵本を作ったか報告発表会がありました。韓国の学生さんたちが作った絵本のクオリティがあまりにも高すぎて意気消沈するとともに尊敬しました。絵が上手いのはもちろん、内容や制作意図が深くてただただ圧倒されました。

雪国での生活

人生で初めて雪国で生活をしました。私は生まれも育ちも浜松なので雪が積もる環境で生活をしたことがありませんでした。そのため、毎日がとても新鮮で楽しかったです。雪だるまを作ったり、凍った道や池の上を滑って遊んだりしました。ありがたいことに雪かきは寮や学校の方々がやってくくださったので、雪国の大変な部分は経験せず、楽しいところだけを味わいました。



韓国留学を通して感じたこと

日本語を勉強している人や日本語を少し話したり聞いたりできる人が思っている以上にたくさんいるなと気が付きました。韓国に来る前は、日本人だからゆえ差別や冷たい態度をとられることがあるのではないかと少し心配だった部分がありましたが、実際に来てみてわかったことは、そういった差別は一切なく、日本の文化に興味を持っている人がたくさんいるということでした。また、日本食もとても人気があり、どこへ行っても日本料理屋がありました。街を歩いていると日本語を見かけることもよくありました。



しかし、日韓問題を全く感じる事がなかったわけではありませんでした。例えば、空港鉄道に乗っていると必ず竹島(独島)は韓国に属する島であるという映像が流れたり、慰安婦像が公園やカフェに設置されているところがあったりしました。何気ない生活の中で見かけたので少し驚いてしまいました。しかし、前述したとおり韓国では日本の文化が人気なので、韓国も日本と同じで個人個人はあまり差別感情を抱いている人はあまりいないのだらうと思いました。

さいごに

10ヶ月の留學生活の中でいろんなところに行き、たくさんの人に出会いました。これまでの人生の中で最も活発で積極的に動けた年でした。ソウルでの語学堂、広報活動、湖西大学校の三つの居場所で楽しく、一生懸命勉強や仕事に取り組み、充実した生活を送ることができました。韓国で出会えた友達や留学を応援してくれた家族に本当に感謝しています。コロナ禍で不安なこともたくさんありましたが、こうして長期留学をすることができて本当によかったです。

